



津田塾大学言語文化研究所主催
2018 年度講演会

講師：苅谷 剛彦先生

オックスフォード大学教授

大学を学ぶ・大学で学ぶ

日時：12月15日（土） 13:00～14:30

場所：津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス SA305 教室

【講演概要】

大学とは何か。大学で学ぶとはどういうことか。グローバル化と呼ばれる現象が、人びとの耳目を集める中で、大学教育の目的、質、教授学習法などが問われている。他方で、大学のグローバルランキングへの注目が集まったり、グローバル人材の育成が大学に求められたりもする。

このようななかで、あらためて大学で学ぶこととは何かを批判的・反省的に考えてみたい。それは同時に、「大学とは何か」という問いと密接に関係するはずである。この講演では、私自身の University of Oxford での教育研究の経験を振り返りながら、日本で「大学」と呼ばれる制度や組織、学びの場所がどのような特徴を持つのかを「半ば外部の眼・半ば内部の眼」の複眼でとらえ直してみたい。日本で「大学」と呼ばれるところがイギリスで university と呼ばれるところとどこがどう違うのか、そこに目を向けながら、大学で学ぶこと、大学について学ぶことを一緒に考えてみたい。

【講師略歴】

オックスフォード大学社会科学およびニッサン現代日本研究所教授、セント・アントニーズ・カレッジ・フェロー。著書に『大衆教育社会のゆくえ』、『教育の世紀』（サントリー学芸賞受賞）、『階層化日本と教育危機』（大佛次郎論壇奨励賞受賞）、『なぜ教育論争は不毛なのか』『教育と平等』など多数。「グローバル化時代の大学論」シリーズに『アメリカの大学・ニッポンの大学』『イギリスの大学・ニッポンの大学』『オックスフォードからの警鐘』がある。

* genbunken@tsuda.ac.jp まで参加申込をお願いいたします。

【申し込み締切：12月9日（日）】

津田塾大学言語文化研究所

Tel. & Fax 042-342-5153

ホームページ：<http://www2.tsuda.ac.jp/genbunken/index.html>